

# 令和5年度国立大学法人機器・分析センター協議会技術職員会議・シンポジウム・総会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

## 1. はじめに(目的等)

国立大学法人機器・分析センター協議会は、参加機関に設置されている共通分析装置を管理する施設の教職員が、施設運用のために協議や情報交換を行う全国会議である。

## 2. 期間・場所

期間:令和5年10月20日

場所:とりぎん文化会館小ホール

## 3. 参加者等

国立大学法人等学術機関で共通分析装置の施設及び装置の管理運用を支援する教職員

## 4. 研修内容

開催校主催による関連施設で業務を行う技術職員のために技術職員会議が開かれた。

事例報告「設備共用に関わる技術人材の養成・研修体制」と題して基生物学・三輪氏, 分子科学研究所中本氏, 大阪大学・戸所氏, 鳥取大学・松浦氏, の4人の講演が行われた。その後文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課 課長補佐 山本氏を交えパネルディスカッション形式の総合討論が行われた。午後からは協議会シンポジウムがあり文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課 課長補佐 山本氏による基調講演:「学術研究政策に係る最近の動向について」、沖縄科学技術大学院大学山内氏による事例報告:「海外の事例を参考にした機器分析コアファシリティの実践的な構築と運営について」聴講した。次に協議会調査分析部会よりアンケートから見える傾向を報告いただきその後総合討論会が行われた。最後に次回開催地の新潟大学古川氏より来年度の開催について連絡があり閉会した。

## 5. まとめと感想

協議会に先立って開催された技術職員会議では4名の方より人材育成関係の報告があり特に注目を集めたのが大阪大学、戸所氏が取り組んでいるNMR装置の業務を行っている全国の若手技術職員を対象にしたオンライン勉強会であった。毎週オンラインで参加者が順番に参考書の通読を行っているとのことで全国的な視点で人材育成が行われているとのことであった。大変良い取り組みであると感じると共に何か手伝うことがないかとも感じた。総会では文部科学省の山本氏からの講演が今後の学術行政の動向を考察する上で大変参考になった。引き続き同協議会に参加し業務に役立てていきたいと思う。